

市町村合併 町長の本音は



川越光蔵議員

議論を期待

向を見るとき、合併に対する本音は。

考
え
て
い
る。

次に、任意協議会設置には、相手が必要であり、今は、設置する段階ないと認識している。

二十一世紀も二年目に入り、地方分権はいよいよ実行の段階に入つてお

り、「地方の時代」として市町村が中心となつてわが国の内政を担うべき時代である。市町村の行財政基盤の強化と効率化が不可欠で市町村合併によつて、その規模、能力を強化していくことが、重要な課題となつてゐる。

市町村長や議員にとても住民に対する説明責任、情報公開を課すべき合併に対するメリット、デメリット論いろいろあるが、現在の国・県の動

町長

町民との対話の中で、合併に関する意見も多数

聞いたが、賛否両論あり、この問題の難しさを痛感

しているところである。今後、集落座談会等により、合併に関する情報提供を行い、住民から素直なご意見を伺つていく。

今後の活動を通じて、住民論議が高まることを期待する。

鹿児島県が示した合併パターン

(本町関係分)

Aパターン



Bパターン



Cパターン



Dパターン

